

2017年（平成29年） 7月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

7/13~7/19のNYMEX・WTIは、46.02~47.12ドルの範囲で堅調に推移した。

7月20日は、前日の1カ月半振りの高値を受けて、高値警戒感や利食い売りから、3日振りに反落した。8月限の終値は前日比0.33ドル安の46.79ドルだった。

週末21日は、7月のOPEC産油量が増加するとの見通し、また、24日に予定されているOPEC・非OPEC合同監視委員会を前に新たな減産措置への懐疑的な見方を受けて、続落した。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が764基（前週比1基減）と3週振りに減少したが、市場への影響は限定的だった。この日から取引の中心となった9月限の終値は前日比1.15ドル安の45.77ドルだった。

週明け24日は、ロシアのサンクトペテルスブルグで開催されたOPEC・非OPEC合同監視委員会で、サウジが8月原油輸出量を660万b/d（前年同期比約100万b/d減）とすると発言、減産対象から免除されているナイジェリアも生産量が180万b/dに達した段階で自主的に生産枠を設定すると表明、必要に応じ協調減産の期間延長も検討するとの合意などを好感し、3営業日振りに反発した。9月限の終値は前週末比0.57ドル高の46.34ドルだった。

25日は、前日に続き供給過剰感が和らぐ中、ユーロ高・ドル安による原油先物の割安感もあり、大幅続伸した。この日夕刻と26日に予定される米国官民の原油在庫報告での大幅取り崩し予想も支援材料となった。9月限の終値は前日比1.55ドル高の47.89ドルだった。

19日は、EIAの米国在庫週報で原油・ガソリンともに市場予想を上回る減少を示したことから3営業日続伸した。9月限

の終値は前日比0.86ドル高の48.75ドルだった。

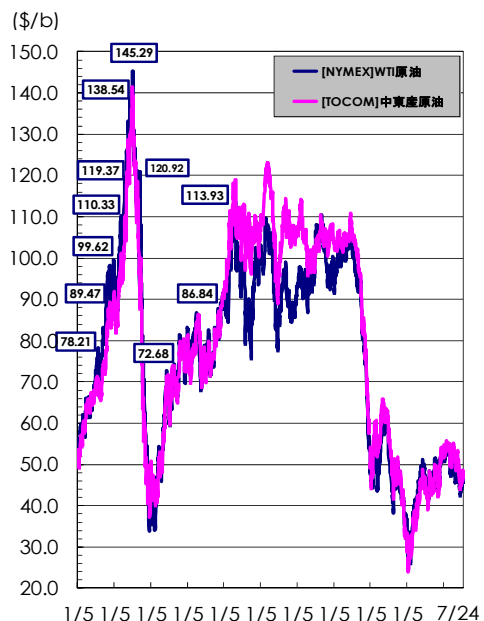
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、前週46.20~47.30ドルの範囲で推移した。7月20日は48.10ドル、21日は47.90ドル、24日は46.70ドル、25日は47.50ドル、26日は49.00ドルで推移した。

為替は、前週111.98~113.53円でやや円高に推移した。7月20日は111.91円、21日は112.05円、24日は110.88円、25日は111.34円、26日は111.92円で推移した。

主要元売会社の8月第1週に適用する卸価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートは円高だったが、原油調達コストは小幅に値上がりした。

そのような中で、7月24日時点の小売価格は、ガソリンが0.2円値上がりの131.1円、軽油は横ばいの110.0円、灯油は0.1円値下がりの76.1円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は2週振りの横ばい、灯油は3週振りの値下がりだった。この週（7月第4週）の原油コストは小幅に値上がりし、元売の卸価格は、据え置きだった。

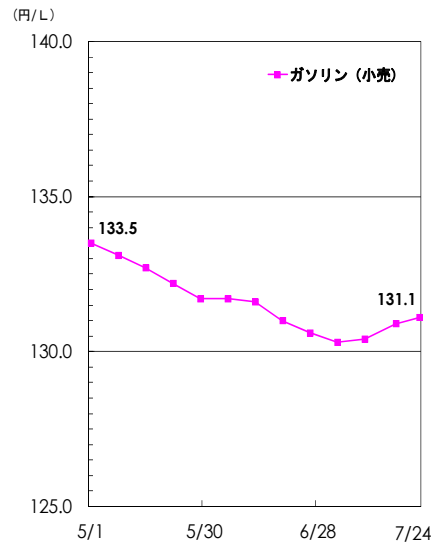
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/16 ~ 7/22	3,559 ▲99	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.9 ▲2.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	7/22	13,618 ▲85	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	7/24	47.25 ➡0.00	▲5.0
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	7/24	46.34 ▲0.32	▲3.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月下旬	51.84 ▼-0.93	▲6.56
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	35,907 ▼-879	▲5,021
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.13 ▲0.69	▼-1.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/24	111.88 ▲1.55	▼-4.38



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/16 ~ 7/22	1,093 ▲ 56	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,019 ▲ 38	▼ -	
	輸出	"	78 ▼ -21	▲ -	
	在庫	7/22	1,724 ▼ -4	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/18 ~ 7/24	49.7 ▼ -0.3	▲ 9.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/18 ~ 7/24	49.3 ▼ -0.7	▲ 8.1
		(TOCOM/中部)	7/24	49.8 ▼ -0.6	▲ 9.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/24	131.1 ▲ 0.2	▲ 8.9	

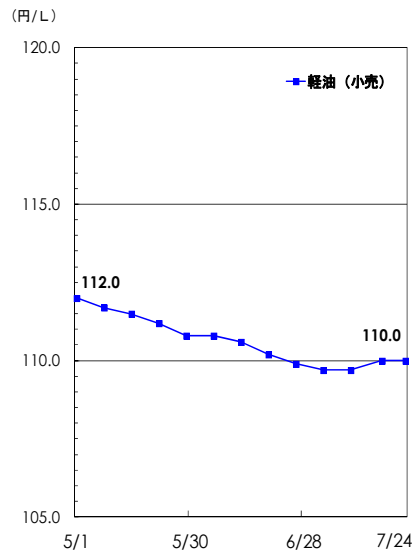
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

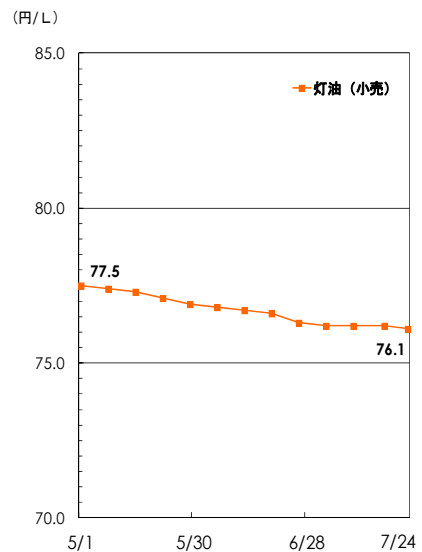
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/16 ~ 7/22	846 ▼ -18	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	670 ▼ -56	▲ -	
	輸出	"	198 ▼ -9	▼ -	
	在庫	7/22	1,422 ▼ -22	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/18 ~ 7/24	48.0 ▼ -0.2	▲ 9.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/18 ~ 7/24	48.0 ➡ 0.0	▲ 10.2
		(TOCOM/中部)	7/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/24	110.0 ➡ 0.0	▲ 7.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/16 ~ 7/22	140 ▲ 1	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	72 ➡ 0	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -3	➡ -	
	在庫	7/22	1,737 ▲ 68	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/18 ~ 7/24	47.5 ▲ 0.1	▲ 10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/18 ~ 7/24	48.0 ▼ -0.2	▲ 10.0
		(TOCOM/中部)	7/24	47.4 ▼ -0.6	▲ 9.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/24	76.1 ▼ -0.1	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月26日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油が前週比720万バレル減と市場予想(同260万バレル減)を大きく上回る減少を示し、ガソリンも同100万バレル減、中間留分も同190万バレル減と市場予想を上回ったことから、3営業日続伸した。また、ナイジェリアの自主的な生産制限やベネズエラ国内の政情不安の高まりの報道も、供給過剰感の緩和に貢献した。9月限の終値は、5月30日以来約2ヵ月振りの高値となり、前日比0.86ドル高の48.75ドル10月限の終値は前日比0.83ドル高の48.85ドルだった。

EIAによると、7月24日時点のガソリンの小売価格は前週比3.4セント値上がりの1ガロン2.312ドル(68.2円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比1.6セント値上がりの2.507ドル(74.0円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、7月16日~7月22日に休止したトッパー能力は21.1万バレル/日で、前週に対して11.3万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

(対前週0.6%減)、軽油67.0万kl(対前週7.6%減)、A重油20.4万kl(対前週1.5%減)、C重油30.8万kl(対前週33.1%増)。

原油処理量は355.9万klと、前週に比べ9.9万kl増加。前年に対しては2.5万klの減少。トッパー稼働率は90.9%と前週に対して2.5ポイントの増加、前年に対しては6.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.4%増、ジェット/1.2%増、灯油/1.0%増、軽油/2.1%減、A重油/13.9%減、C重油/3.0%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比2.2万kl減)。軽油の輸出は19.8万kl(前週比0.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、軽油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は101.9万kl(対前週3.8%増)と2週振りに前週比で増加、5週連続で前年比で減少となり、8週振りに100万klを超えた。

ジェット6.4万kl(対前週40.8%減)、灯油7.2万kl

(単位:千KL)

	今週 (7/16 ~ 7/22)	前週 (7/9 ~ 7/15)	前週比	
ガソリン	1,019	981	▲ 38	(4%)
ジェット燃料	64	108	▼ -44	(-41%)
灯油	72	72	▶ 0	(0%)
軽油	670	726	▼ -56	(-8%)
A重油	204	207	▼ -3	(-1%)
C重油	308	231	▲ 77	(33%)
合計	2,337	2,325	▲ 12	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月22日時点の在庫は、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、灯油、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは172.4万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては2.6万kl少ない。

灯油は173.7万kl、前週差6.8万kl増。前年に対しては35.6万kl少ない。

軽油は142.2万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては8.0万kl少ない。

A重油は77.5万kl、前週差2.7万kl減。前年に対しては2.8万kl多い。

C重油は202.3万kl、前週差10.8万kl減。前年に対しては15.4万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (7/22)	前週 (7/15)	前週比	
ガソリン	1,724	1,728	▼ -4	(-0%)
ジェット燃料	1,208	1,170	▲ 38	(3%)
灯油	1,737	1,669	▲ 68	(4%)
軽油	1,422	1,444	▼ -22	(-2%)
A重油	775	802	▼ -27	(-3%)
C重油	2,023	2,131	▼ -108	(-5%)
合計	8,889	8,944	▼ -55	(-0.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月18日から7月24日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートがやや円高であったが、原油コストはわずかに値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103円台でやや軟化、軽油47～48円台でやや軟化、灯油47円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン103～105円台で軟化、軽油48～49円台でやや軟化、灯油47～48円台で軟化し推移した。

先物価格は、ガソリン101～103円台で軟化し、軽油48円台で横ばい、灯油46～48円台で軟化し推移した。元売の卸

価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がりし、製品スポット市況は、陸上の灯油がわずかに値上がり、先物の軽油が横ばいであった以外は、軒並み値下がりした。週間のガソリン出荷量(輸入分を除く)は、2週振りに前週比増加、8週振りに100万kl超となったが、5週連続で前年割れとなった。

8月第1週(7月27日～8月2日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月18日～7月24日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値下がり、軽油は0.2円の値下がり、灯油は0.1円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.5円の値下がり、軽油は0.8円の値下がり、灯油は0.2円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は0.2円の値下がりだった。原油価格は値上がりしたが、為替は円高で、原油コストはわずかに値上がりとなった。

8月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (7/18～7/24)	前週 (7/11～7/14)	前週比
	レギュラー	49.7	50.0
灯油	47.5	47.4	▲ 0.1
軽油	48.0	48.2	▼ -0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (7/18～7/24)	前週 (7/11～7/14)	前週比
	レギュラー	49.3	50.0
灯油	48.0	48.2	▼ -0.2
軽油	48.0	48.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/18～7/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.3	▼ -0.7	▼ -0.5
灯油	▲ 0.1	▼ -0.2	➡ 0.0
軽油	▼ -0.2	➡ 0.0	▼ -0.1
A重油	▼ -0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上パーズ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円値上がりの131.1円、軽油は横ばいの110.0円、灯油は0.1円値下がりの76.1円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は2週振りの横ばい、灯油は3週振りの値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは30都道府県、横ばいは5県、値下がり12県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の125.4円(前週比1.6円安)、次が滋賀県と埼玉県の127.0円(各々同横ばい、同0.1円高)だった。最高値は沖縄県の139.7円(同0.3円安)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比1.9円高の石川県(129.5円)、最も値下がりした県は同1.6円安の岡山

県(125.4円)、横ばいが高知県・香川県・栃木県・広島県・滋賀県だった。

原油コストはやや値下がりし、元売りの卸価格は全社・全油種据え置いたが、未転嫁分の転嫁が進み、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりしたが、為替レートは円高となり、原油コストはわずかに値上がりした。元売会社の卸価格は、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。次週(7月31日)のガソリンの小売価格は、過去の未転嫁分のタイムラグによる波及もあるので、横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/24)	前週 (7/18)	前週比	直近高値	
レギュラー	131.1	130.9	▲ 0.2	08/8/4	185.1
灯油	76.1	76.2	▼ -0.1	08/8/11	132.1
軽油	110.0	110.0	➡ 0.0	08/8/4	167.4

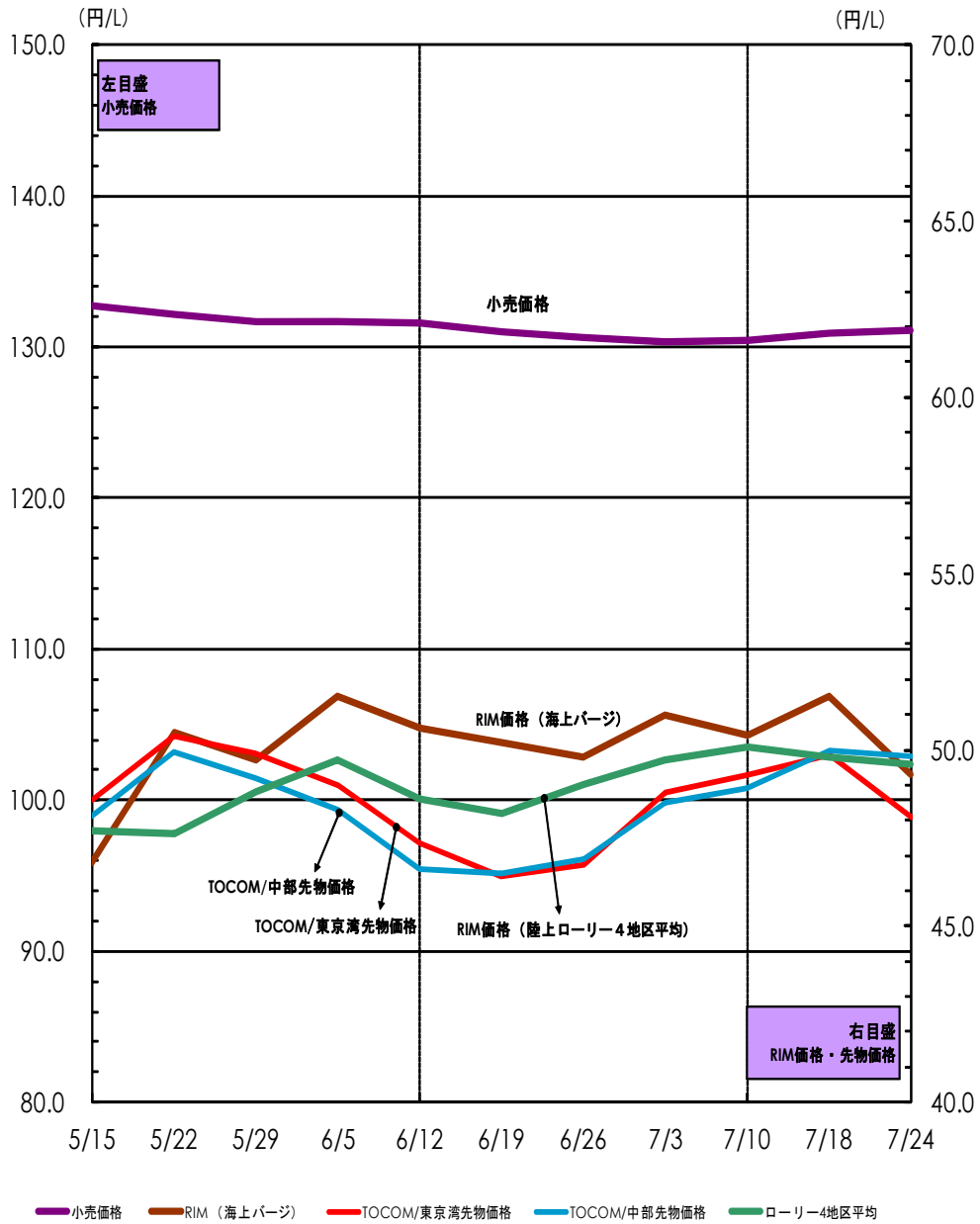
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/5/15 ~ 2017/7/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第17号)の公表は、8/4(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。